

【防災の日】省エネ性能は“あたりまえ”、これからは「防災性能」の高い家を
地震・水害・停電——災害時だけでなく「災害後の暮らし」まで考えたヤマト住建の住まいづくり

注文住宅を手がけるハウスメーカーのヤマト住建株式会社(本社:兵庫県神戸市、代表取締役:河本 佳樹、以下「ヤマト住建」)から9月1日の「防災の日」にあわせ、これからの住宅に求められる「防災性能」について、当社の地震・水害・停電への取り組みをご紹介します。

もしも

いざ

家だけでなく、災害後の暮らしまで守る住まいへ。

ヤマト住建の

災

害

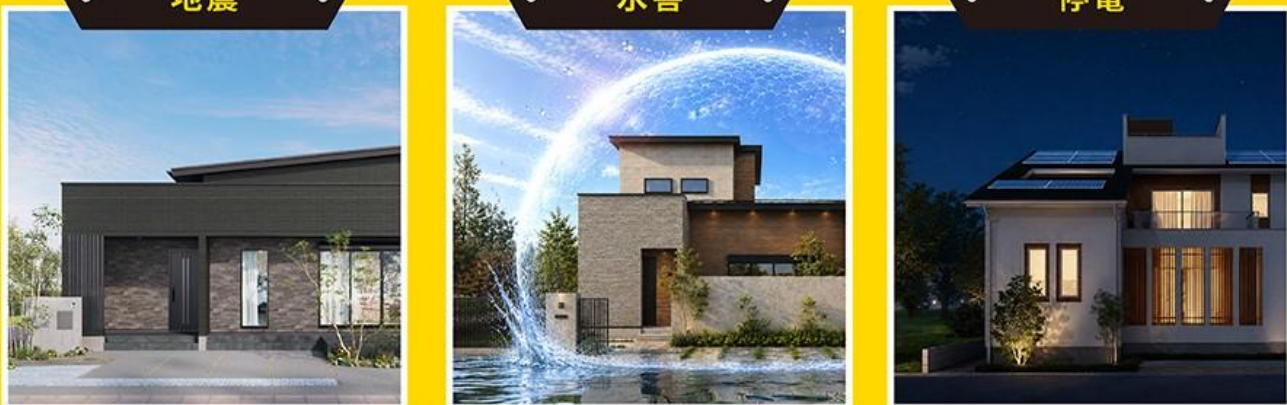
対

策

地震

水害

停電



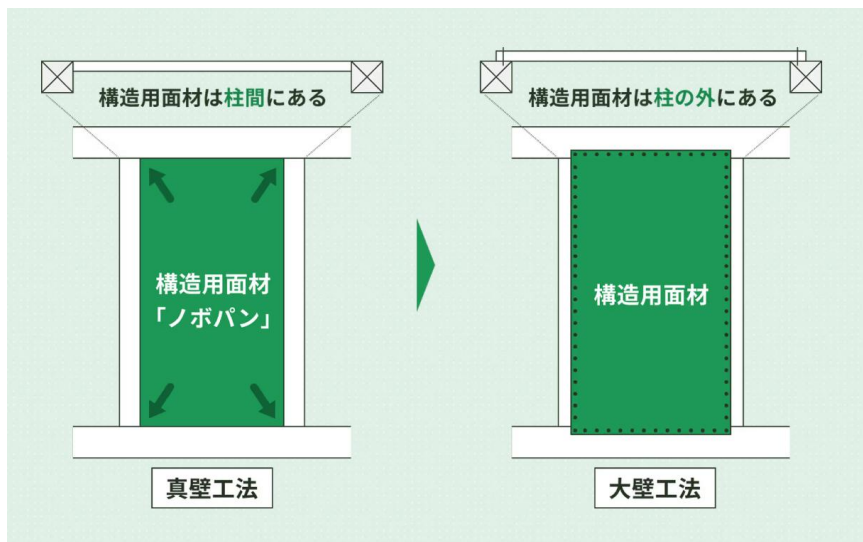
日本では地震だけでなく、台風や豪雨、洪水など、さまざまな自然災害が発生しています。内閣府が発表した2026年度の「防災週間」の実施方針でも、今後、気候変動の影響による災害のさらなる激甚化・頻発化が懸念されています。もし、大きな地震や豪雨に見舞われたら、家は住む人とその暮らしをどこまで守れるでしょうか。非常食や防災グッズを備えることと同じように、これからの家づくりでは「住まいそのものの防災性能」が重要な備えの一つです。ヤマト住建では、日々の快適性や省エネ性能はもちろんのこと、災害が起きたときの被害を抑え、その後の暮らしまで支えられる住まいづくりを進めています。

■「耐震等級3だから安心」で終わらせない。繰り返す地震まで考えた地震対策

耐震等級3は、住宅性能表示制度における最高等級で、耐震等級1の1.5倍の地震力に備える水準です。ヤマト住建では、耐震等級3(許容応力度計算)を基準として住宅を設計しています。しかし、大地震は一度大きく揺れて終わるとは限りません。過去の地震では、短期間に大きな揺れが繰り返し発生し、建物の被害が進行した事例が多く報告されています。そのため、一度の大地震に「耐える」だけでなく、その後も「繰り返す揺れによる建物へのダメージを抑える」ことが重要です。だからこそヤマト住建では、耐震等級3という「数字」だけではなく、大地震に耐えること、さらに繰り返される揺れによる建物へのダメージを抑えることまで考えています。

○耐震等級3の強固な構造

ヤマト住建では、柱や梁で建物を支える「木造在来軸組工法」に、耐力面材(パネル)を組み合わせたハイブリッド構造を採用しています。木造在来軸組工法が柱や梁などの「軸」で建物を支えるのに対し、耐力面材を組み合わせることで、地震や台風などによる大きな力を「面」でも受け止め、建物全体へ分散。軸と面の両方で支えることで、歪みやねじれに強い構造体をつくります。そして、ヤマト住建の構造で大きな特徴となるのが、この耐力面材の取り付け方です。現在の木造住宅では、耐力面材を柱の外側から張る「大壁工法」が広く普及しています。一方、ヤマト住建では、耐力面材を柱・梁・土台でつくられたフレームの“内側”に納める「**真壁工法**」を採用しています。



大壁工法では、柱の外側に耐力面材を張り、釘で固定します。一方、真壁工法では、耐力面材そのものが柱・梁・土台で囲まれたフレーム内に納まり、地震の力が加わった際には、面材がフレームの中で“突っ張る”ように建物を支えます。

この構造により、繰り返し大きな揺れを受けても面材自体が破損しにくく、地震による耐力の低下を抑えやすいことが特徴です。真壁仕様は、柱の外側から面材を張る大壁仕様と比べ、フレーム内に面材を納めるための部材や納まりが必要となり、

施工にも手間がかかります。現在、大壁工法が広く普及している背景には、こうした施工性やコスト面でのメリットもあります。それでもヤマト住建が真壁工法を採用しているのは、住宅に求めるのが「一度の大きな地震に耐えること」だけではないからです。一度目の地震を乗り越えたあとも、繰り返す大きな揺れに耐えられること。そして、地震後も住まいの強さを維持していくこと。耐震等級3という“数字”だけでは見えない部分まで考えることが、ヤマト住建の地震対策です。

○制振ダンパー「evoltz」で揺れのダメージを軽減



耐震が「地震の揺れに耐える」考え方であるのに対し、制振は「建物に伝わる揺れを抑える」ための対策です。ヤマト住建では、わずか震度1の揺れから性能を発揮する油圧式制振ダンパー「evoltz(エヴォルツ)」を採用。小さな揺れから効果を発揮し、地震のエネルギーを吸収・緩和することで、構造部材にダメージが蓄積することを抑えてくれる高性能の油圧式制振ダンパーです。一度の大きな地震だけ

ではなく、その後に続く余震など繰り返す地震を見据えていることも、ヤマト住建が地震対策で大切にしているポイントです。

繰り返す地震に強い家の詳細はこちらから: <https://www.yamatojk.co.jp/taishin>

■2026年6月発売。豪雨・浸水に備える「耐水害仕様」の住宅



備を地盤面より1m以上の高さに設置することで、水害後の生活再開に必要な設備を守ります。住む人の暮らしを守る「災害後も、日常生活に戻りやすい家」を目指しています。

水害対策できる家の詳細はこちらから: <https://www.yamatojk.co.jp/choose/taisui>

■停電しても暮らしを止めない。太陽光発電×蓄電池×V2Hという備え



災害等によって停電が発生した場合、空調設備や照明、冷蔵庫、スマートフォンの充電など、生活に必要な電気が使えなくなる可能性があります。ヤマト住建では、8割以上のお客様が太陽光発電システムを採用。さらにご希望や商品・仕様に応じて、太陽光発電と蓄電池を組み合わせた住まいや、V2H (Vehicle to Home) を組み合わせた住まいをご提案しています。

○太陽光発電 × 蓄電池

日中は太陽光発電で電気をつくり、余った電気を蓄電池へ。蓄えておいた電気は夜間だけでなく、停電時にも活用できるため、災害時に必要な電力の確保につながります。

○太陽光発電 × 蓄電池 × V2H

さらにV2Hを導入すれば、EV (電気自動車) や対応するプラグインハイブリッド車に蓄えられた電気を住宅へ給電することができます。

太陽光で電気を「つくる」、蓄電池やEVに「ためる」、必要なときに住宅で「使う」。省エネや電気代削減という日常のメリットだけでなく、停電時にも電気を確保するための備えとして活用することができます。

電気を自給自足できる家について詳細はこちら: https://www.yamatojk.co.jp/choose/ev_house

■災害自体は防げなくても、「被害を減らし、日常へ戻りやすくする家」はつくれる



住宅に求められる性能は、日々の快適性や省エネ性だけではありません。大きな地震が起きた時に、住む人の命を守れること。豪雨に見舞われた時に、住宅への被害を抑えること。停電した時にも、最低限の電気を確保できること。そして、災害の後にできるだけ早く、いつもの暮らしへ戻る。ヤマト住建では、高気密・高断熱、省エネ・創エネ性能に加え、地震・水害・停電などへの備えまで含めて、これからの時代に求められる「高性能住宅」だと考えています。平常時には、健康的で快

適、省エネ性能が高く、もしものときには、住む人とその暮らしを守る家。

9月1日の「防災の日」を、非常食や防災グッズだけではなく、「住まいそのものの防災」について考えるきっかけにしたいと考えています。

※耐震等級3の認定取得は、プラン・強度計算によります。

※耐水害仕様は水害による被害リスクの低減を目的としたもので、すべての水害を完全に防止するものではありません。想定を超える水位や敷地条件、プラン等により被害が発生する場合があります。水害時は自治体の避難情報等に従い、安全確保を最優先してください。

<会社概要>

企業名：ヤマト住建株式会社(URL: <https://www.yamatojk.co.jp/>)

代表者：代表取締役 河本 佳樹

所在地：〒651-0083 兵庫県神戸市中央区浜辺通5丁目1番14号
神戸商工貿易センタービル 18階

設立：1987年11月